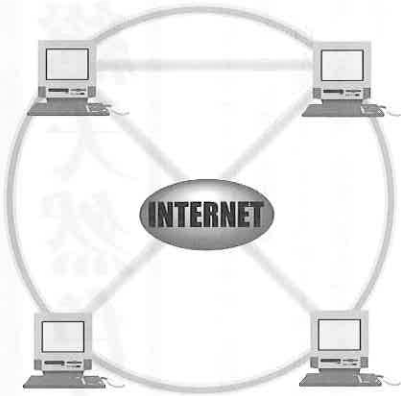


読者が語るインターネット活用術

メルマガを購読してみよう!



世間で言われるほど、インターネットは活用されているのだろうか。特に農業生産の現場にいる人たちに役立つ情報は収集可能なのか。また最近、農家の産直ホームページも増えてはいるが、本当のところ成功しているのか。結局のところ、インターネットの本当の価値はユーザーにしかわからない。そこで、本誌読者の中でインターネットを活用している方々に直接インタビューして、その楽しさ、利便性の如何について語ってもらうことにした。

ここ最近、50代以上の「農業経営者」読者の間でも、インターネットの利用が増えている。理由を聞いてみると、農業経営に役立つ情報を仕入れるためのお答えが圧倒的多数だ。しかし、どのくらいの頻度でご利用ですか、という質問の答えとなると途端に元気がなくなってしまう。

「農作業で疲れて帰って来た後にパソコンの画面を眺める気にならない」、「欲しい情報を探すまでに時間がかかりすぎてやる気をなくしてしまっただ」、「メーカーの商品情報は思ったより充実していないので、カタログを請求してじっくり見た方が参考になる」等々、頻繁に使うほど活用結果が出ていない人が多いようだ。

メルマガの購読で、パソコン利用度アップ

そんな方にお薦めするのが、メルマガジン(以下、メルマガ)の購読だ。自分の関心のあるトピックを取り上げてくれるメルマガに一度登録してしまえば、定期的に自分のメールアドレスまで配信される。新聞や雑誌を定期購読するのと同じ感覚だ。メルマガでカバーできない補足資料などは、メルマガ本文中にあるURLまでジャンプすれば、ホームページ上で簡単に見ることが出来る。

検索エンジンの膨大な項目から情報を探し出すには時間と能動的な作業が必要だ。一方、メルマガの場合はすでに発信者によって情報がコンパクトにまとめられており、自分の関心ある内容だけを追っていけばよい。また、定期的に送られて来ることで、パソコンを開くのさえ面倒だという方にとっても、メルマガの内容が面白ければパソコンのスイッチを入れる動機付けにもなるだろう。

農水省にメールしてみよう

では、具体的に農業関係でどんなメルマガが発行されているか見ていこう。まずは、農水省のメルマガ。ご存じ小泉首相のメルマガに引き続き、各省庁でも独自にメルマガを配信しはじめた。農水省は先月11月1日に創刊したばかり。今後1日と15日の月2回配信される予定だ。内容はお役所らしく固く当り障りのないモノだが、魅力はなんととっても農水省から直接届くことだ。通常わたしたちが目にしてはいる農水省の記事が、農水省が記者会見等で発表した内容を、各新聞・雑誌社が加工して記事にしている二次情報に対し、このメルマガは少なくとも農水省の声が皆さんに直接届く一次情報だ。かつ、何か疑問があれば農水省のメ

ルマガ編集部へ直接問合せもできる。返事がすぐ来るかは知らないが、とりあえず然るべき担当者から何らかの返信があるはずだ。行政側としても、施策に対して意見を持った農業経営者と、メルマガを機に意見交換ができれば、施策に活かせることがあるかもしれない。登録は、<http://www.naff.go.jp/mail/reg.html>で簡単にできる。農林水産省の施策等に関する意見・要望は、<http://www.naff.go.jp/white56.html>で書き込み送信するか、mailto:naff_mm@nm.naff.go.jpまで直接メールできる。インターネットに接続していないが、一度どんなものか読んでみたい方、編集部までご一報いただきたい。FAXでお送りする。

農資材の特売情報なら「レ

次にファーマーズポータル(農)のメルマガをご紹介します。一言でいうと、農資材の特売情報満載のメルマガだ。農作業の時期に合った商品をピックアップしてくれるのはうれしい。欲しいモノがあればご利用の農協や農資材店と価格を比較して安ければ(農)で買おうということになるだろう。メルマガを受取るには、(農)のホームページ<http://www.nou.co.jp/>で会員登録する際に、メル

マガ希望とすれば良いだけだ。

JA全農からの情報は「あぐりめーる」

今までこのコーナーでも何度か取り上げた、JA全農アピネス／アグリインフォのメルマガ「あぐりめーる」をご紹介します。

10月22日のメルマガには、ニュースとして「JA全農では牛海綿状脳症（BSE、いわゆる狂牛病）情報のホームページ（<http://www.zenoh.or.jp/bse>）を新たに開設いたしました。」との記述があった。早速ジャンプしてみると、全農のBSE対策について簡単に言及してある。関連サイトとして紹介されていた、日本BSE検査の権威「動物衛生研究所（<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/bse/bse-shml>）」の緊急レポートは読み応えがあった。こんな風にして、メルマガのトピックから思わぬ収穫があったりする。また、JA全農ニュースとして、最近の日本農業新聞から主な記事がピックアップしてあり、ジャンプすればその記事全体が読める仕組みになっている。土日にテレビで、今週の出来事をトピックにまとめて放送している番組のようなもので、まとめて読めるときに便利だ。他には、「最近登録された新農薬」コーナーでは、本日に最近登録されたば

かりの農薬がリストしており、ジャンプすれば登録内容の詳細が見られる。「アグリインフォ新着情報」では、膨大なデータを誇るアピネス／アグリインフォで最近更新した内容を案内してくれる。11月6日号のあぐりめーるでは、農業機械の仕様と特長の内容が13年度版に更新された、ということがわかった。アクセスしてみると、農業機械が分類しており、各分類の中でメーカー別に商品一覧が出ている。さらに、個別の商品をみると主な仕様と写真がある。更に細かい仕様が見たければ、エクセルファイルをダウンロードすればよい。カタログの裏に小さい字で掲載されているようなスペックがすぐに手に入る。メーカー別にホームページにアクセスして商品探しをするよりもずっと早い。あぐりめーるの購読は、<http://info.agri.zenoh.or.jp/>から申込できる。その前に、JA全農アピネス／アグリインフォの入会手続きをお忘れなく。

市況と流通情報の決め手

最後に、(社)全国生鮮食料品流通情報センターが配信するメルマガ、その名も「生鮮食料品市況情報サービス」だ。これは、自分の作っているまたは関心のある作物を登録しておけば、インターネットを通じて野菜、

果実、花き（切花）の市況情報を携帯電話かパソコンにメールで提供してくれるサービス。1品目1市場1〜10産地を1条件として、5条件まで登録できる。毎日13時以降（休日を除く。花きは月、水、金）に届けられる。これがあればいちいち新聞の市況欄やインターネットの市況サービス等にアクセスする必要がない。データは全国55卸売市場から毎日発出される市況情報（品目別入荷量、気配価格等）に基づいている。

また、同センターが発表しているマーケットレポートは、スーパーや量販店の青果売場のホットニュースを伝えてくれる。例えば旬の売れ筋情報レポートはこんな感じだ。

「目黒区B量販店——気温の低下もあり、鍋物コーナーを前年より2週間早めに展開し、鍋物用の売上は前年の1割増。エリンギとカット野菜は同2〜3倍と好稼働。松茸は、9月から売場スペースを拡げて販売し同3割増。また、牛海綿状脳症（BSE）発生以来、有機・減農薬野菜の動きが良く、同4割増。消費者は、安全性を意識している様子」

旬の販売戦略レポートでは、こんな情報があった。「顧客単価が下がっているため、時間帯によつては、みかん・くり・生し

いたけなどを袋満杯詰めで、〇〇円といったポリューム販売を行なう。かきやりんごは品種が多いため試食を増やす。季節商品のコーナーは全体的に赤・茶に片寄りがちなため、意図的に、なすやすだちをはさんでコントラストをつける」

レポートを読み進んでいくと、各店舗で売上を伸ばすためにどんなアイデアが適用されてどんな結果が出ているのか等、具体的な事例がよくわかる。今後、スーパー等の小売店への営業を考えている方にとつても、先方が何を考えて仕事をしているかを知ることが、色々な角度からの提案が考えられるのではないだろうか。このサービスの利用料金は、1ヶ月1,000円。無料のメルマガが主流になる中、有料の価値があるかどうかは、<http://www.nicplains.or.jp/>（Iモードからは<http://www.nicplains.or.jp/i/>）で確認いただきたい。

新聞や雑誌の購読と同じくらい、メルマガの購読は多くの人にとつて当たり前となってきた。その理由は、新聞雑誌では得られない何かがあるからに他ならない。今回は、自分でメルマガジンを発信している農業経営者の方の事例を取り上げ、情報発信の手段としての活用法をお伝えしたい。（浅川芳裕）